

私の私学考462



女子大学としての挑戦

跡見学園女子大学 学長 小 仲 信 孝



はじめに

跡見学園女子大学は、2025 年に開学 60 周年を迎える。と同時に、学園創立 150 周年の節目となる年でもある。本稿においては、本学と学園の歴史をふり振り返りながら、女子教育機関としての今後について述べたい。

1. 跡見学園女子大学の沿革と現在

跡見学園の歴史は、日本の近代的教育制度を定めた「学制」が公布されて間もない 1875（明治 8）年に、創立者跡見花蹊が「跡見学校」を東京神田猿樂町に開校したことに始まる。知育だけでなく情操教育にも重きを置いた跡見独自の教育方針は、草創期の女子教育において高い評価と信頼を得た。跡見学校は 1913（大正 2）年に跡見女学校、1944（昭和 19）年に跡見高等女学校となり、1947（昭和 22）年に跡見学園中等部、1948（昭和 23）年に跡見学園高等学校、1950（昭和 25）年に跡見学園短期大学を設立。1965（昭和 40）年には跡見学園女子大学が埼玉県新座市に設立された。

本学は設立当初、文学部国文学科、美学美術史学科の 2 学科体制であったが、その後、1967（昭和 42）年に英文学科を設置、さらに 1974（昭和 49 年）文化学科を設置した。これにより、大学当面の規模が確定した。

学園の 4 代目理事長に就任した跡見純弘は、中高、短大、大学の施設拡充を図るとともに 2002（平成 14）

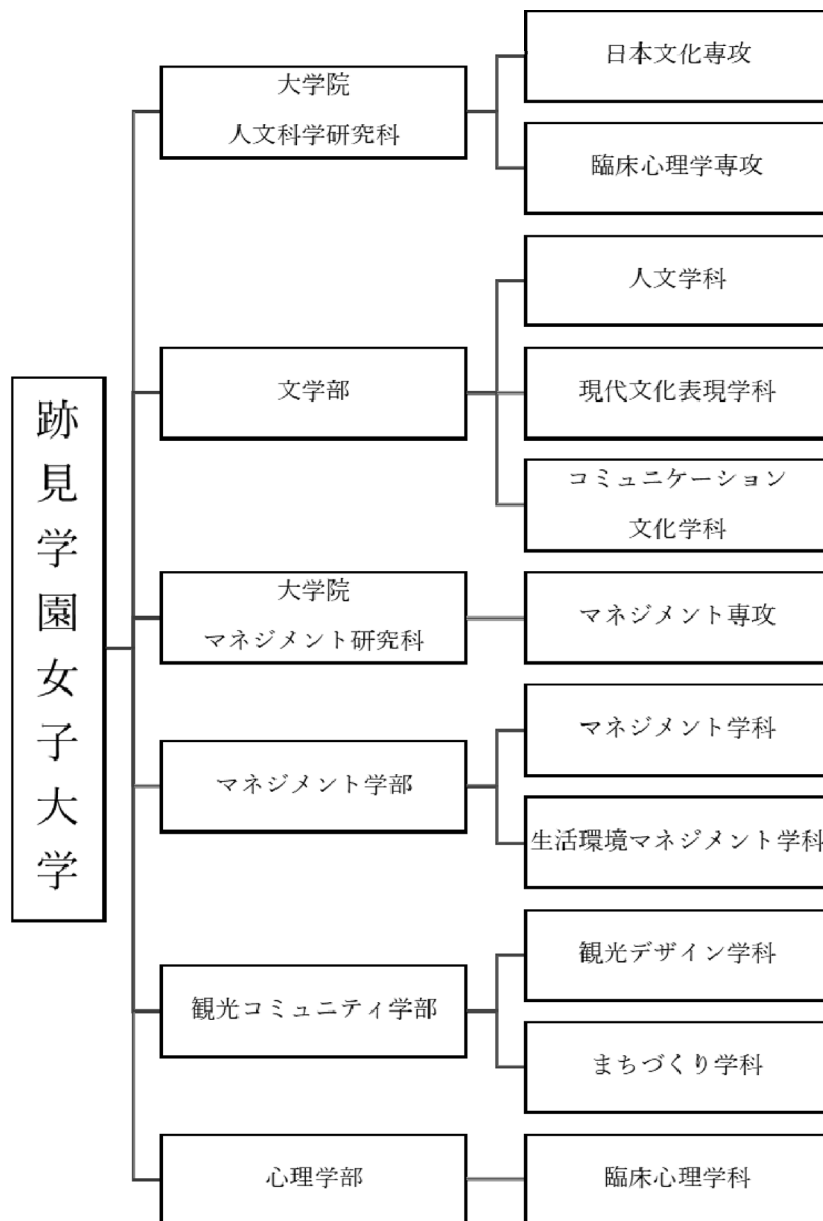


▲ 新座キャンパス桜並木

年、大学に社会科学系の新学部、マネジメント学部を設置した。同時に既存の文学部の改組を図り人文学科を設置、さらにまったく新しい学問分野として臨床心理学科を新設した。これによって2学部3学科体制となり、第二の開学というべき時期を迎えたのである。

18歳人口の減少、女子の4年生大学志向が強まる中で、2007（平成19）年、短期大学を閉学することになり、これを機に新たな2学科を設置する一方、短期大学の跡地に大学用の教室棟を新築した。これ以後、大学は、1、2年生の学ぶ新座と、3、4年生が学ぶ文京（茗荷谷）とのデュアルキャンパス体制となり、郊外と都心とのそれぞれの立地を活かした教育を行っている。

2024年度の学部学科体制は下図のとおり、4学部8学科である。



2. 女子大学としての挑戦

上述のように、本学では開学以来、学部学科改組によってさまざまな改革に取り組んできている。その中でも、大きな挑戦とっていいものは、2002 年のマネジメント学部の創設であった。

本学部は「マネジメント」を冠した日本初の学部として誕生した。男女雇用機会均等法（1985 年）、男女共同参画社会基本法（1999 年）の成立が示すように、女性の労働市場への参加が大きく進み始めていた 2000 年代初頭に、企業や公的機関などの現場で活躍できる女性の育成を目標に掲げ、新たな社会的ニーズに応えようとしたのである。そのため、研究者に加え、企業や政府など第一線での実務経験の豊富な専門家を教員に迎え、学問研究、実務の両面から企業・公共・文化の分野におけるマネジメントを学べる環境を整えた。

マネジメント学部では、学生たちに日々変化する社会の多様な問題を解決する力を身につけさせるために、「アカデミック・インターンシップ」を 2 年次の必修科目とした。この試みは文部科学省「大学等におけるインターンシップ表彰」において、2019 年度の優秀賞を受賞した。

（1）正規的教育課程として位置づけられていること、（2）組織的な実施体制が取られていること、（3）企業等との連携が取れており、毎年 200 名以上の学生の実習先が確保されていること、が評価されたものである。

現在では、インターンシップはあたりまえのものになっているが、単なる就業体験ではなく、学修したマネジメントの理論を実践的に検証する本学の「アカデミック・インターンシップ」は先進的な取り組みであった。

2015 年、第 3 の学部として観光コミュニティ学部を設置した。観光立国推進基本法（2006 年）の成立以来、観光が成長戦略の新たな柱になったことにより、観光分野で活躍できる人材の育成が社会的課題になったことを背景にするものであったが、新学部で特筆すべき点は、観光を多面的に学ぶ観光デザイン学科と、観光と密接な関係にある地域社会のあり方を学ぶコミュニティデザイン学科の 2 学科体制としたことである。

コミュニティデザインという概念は、当時まだ広く浸透している状況にはなかった。にもかかわらずコミュニティデザイン学科を設置したのは、東日本大震災によって顕在化したコミュニティ、すなわち地域社会における人のつながりの重要性を認識し、その再生に貢献することが大学としての社会的使命と考えたからである。

従来のように、行政主導で地域社会を作っていくのではなく、住民自らが主体となって、住民同士のつながりによって地域社会づくりを実践するコミュニティデザインの斬新性は、地方における過疎化、都市におけるコミュニティの崩壊など、日本が直面する社会課題の解決に新たな展望をもたらす可能性が高い。それを、近い将来、社会の担い手となる若い世代に学んでもらいたい。コミュニティデザイン学科の設置にはそのような願いが込められていた。

学生たちは現地に足を運び、その地域が抱える課題を発見するためにフィールドワークを行いながら、地域で暮らす人びととともに、誰もが幸せで暮らしやすいまちづくりをテーマに学んでいる。なお、コミュニティデザイン学科は令和 6 年度から学科名称を「まちづくり学科」

に変更した。

「クールジャパン」と海外から注目されている日本のマンガ、アニメ。こうした文化表現の領域については、従来、文学部人文学科の教育課程において教育・研究を行ってきたが、若者世代の興味と関心が現代のポップカルチャーにシフトしている状況を踏まえ、文化表現の〈いま〉に特化した学びを提供する目的で2010年、文学部の中に現代文化表現学科を開設した。これによって歴史遺産としての文化について学ぶことを主眼とする人文学科の教育課程との差別化が図られた。

本学科では、マンガ、アニメに加え映画、舞台、デザイン、現代アート、ポピュラー音楽、デジタル表現など10分野の文化表現についてアカデミックに、そして実践的に学ぶことが可能である。マンガであれアニメであれ、学生たちにとっては日常的に接している文化表現を学問的な視点から考究することは新鮮な体験であり、カルチャーに対する新たな発見をもたらしている。

学生たちの多くは実作者を目指しているわけではないが、作品読解を通じて身につける批評力、ゼミ活動や卒業論文などで修得した実践的なライティングスキルは、出版、広告はもとより、広範な分野で次世代文化の発展を支えていく人材にとって不可欠なものといえる。

開設から10年以上を経て、現代文化表現学科は全8学科の中で、心理学部と並ぶ人気学科となっている。

3. 女子大学は不要か？

近年、受験生の共学志向の高まりとともに、女子大離れが進んでいる。2022年度、全国の私立女子大学71校中49校、69%が定員割れを起こしている（読売新聞調べ）。そうした女子大をめぐる厳しい現状を反映して、女子大の存在意義それ自体に疑問を投げかける言説も多く流布されている。急速に進む少子化が背景にあることはいままでもないが、女子の進路の多様化や意識の変化に対応できていないことが要因であるとの指摘もある。

定員割れは本学も例外ではない。コロナ禍以降、厳しい状況が続いている。打開の道はあるのか。共学化という選択肢もあるだろう。共学化に踏み切った女子大が志願者を増やしている事実は認識している。しかし、本学では共学化を目指す予定はない。

本学の目指すべき道は女子大として存続し続けることであると考えている。もちろん、容易い道ではない。現状のままでの存続は困難であろう。本学がマネジメント学部を創設した20年前と比べて、一層の男女共同参画が求められている今日、時代のニーズに応じた教育内容への刷新は必須である。学びの分野を人文科学系以外にも広げていかなければならない。本学では現在、「大学・高専機能強化支援事業」に応募申請し、データサイエンス&デジタルアートを学ぶ文理融合型の「情報芸術学部（仮称）」の新設を構想している。と同時に、既存の学部学科についても、学生たちの多様な分野への進路選択を後押しできる教育体制に刷新すべく、改組

を計画している。

時代のニーズに応じて改革を進めつつ、女子大学という枠組み自体は今後とも維持していきたい。跡見学園女子大学の人材育成目標は「自律し自立した女性」の育成である。多様な選択肢がある中、将来の目指す姿や目標を自分自身で主体的に設計できるキャリアデザイン能力を身につけていく過程においては、のびのびと自然体で成長していくことが可能な環境が大きな役割を果たす。ジェンダーバイアスのない女子大学だからこそ、そうした環境を提供できるのである。

本学は、高校現場の先生方から「面倒見のいい大学」との評価をいただいている。学修面では、アカデミックアドバイザー制度によるきめ細かな指導を行っていること。キャリア支援においては、3年生全員に対して専任職員が面談するなど、学生一人ひとりに適したアドバイス、指導を行っていることが高い就職率に結実している。それは中規模の女子大学であるからこそ実現できている本学の強みではないだろうか。

年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
就職率	98.4%	97.9%	97.5%	98.6%	98.1%

学園創立から 150 年。女子のための教育機関であることは跡見花蹊の時代から変わらぬアイデンティティである。跡見学園女子大学はこれからも女性の自己実現のための教育機関として可能性を追求していく。



▲ 文京キャンパス屋上庭園